

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員					

授業の概要	このゼミではこれまでゼミ活動で取り組んできた継続的な地域課題を中心テーマとして、調査・研究と、対象となる地域住民や障がい当事者、市民活動家、行政マンと交流を継続および実践的な支援活動であるコミュニティ・ソーシャルワークを実践する。このフィールドワークを通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワーカーとして適切な判断、態度、行動を習得するとともに、必要な知識・スキルを学ぶ。またゼミ集団としてグループワークが適切に行うことができるようチーム力をつけていくことが目標である。						
到達目標	1.地域課題とはどのようなことか、対象となる地域アセスメント、関わる人々のローカル文化、地域の社会資源、家族や個人の状況などの情報・データをもとに現状を理解しニーズを説明できる。 2.対象となる課題へのアプローチを理解し概説し、応用できる。 3.活動の成果についてのエビデンスを導き出し、研究成果としてレポートにまとめることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	ゼミメンバーとともに取り上げる今年度のテーマを選択する。演習は前半で文献・資料・データの読み込み、後半で実践編としてテーマ対象のアセスメント後に活動等の展開とリ・アセスメントを積み重ね、エビデンスをまとめ、報告書の作成や提言等を予定している。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.テーマについての現状と課題および展望について概説できる。 2.文献や資料、データをレジュメにまとめ報告できる。	1.テーマについて自身の興味や関心に引き寄せ、現状と課題および展望について優れたレポートとしてまとめ、優れた水準で報告できる。 2.文献や資料、データを収集・分析し、レジュメにまとめ優れた水準で報告できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○		○		40%
小テスト・授業内レポート	○	○					20%
宿題・授業外レポート	○	○					20%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	1.提出されたレポートにはコメントとして教員がフィードバックをする。 2.ゼミ時間にディスカッションなどを通じ、コメントをする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション テーマの協議と基本文献の確認	オリエンテーション、自己紹介、面接予定の周知、テーマ課題の選定を行う。	
	第2回	今後のゼミ活動に向けた研究方法と環境、 図書館バックヤード・ツアー	テーマについて協議し、グループ分けの後、資料検索を実施する。	
	第3回	文献研究①	テーマ共通の文献を選定し、レポーター報告を実施する。	
	第4回	文献研究②	テーマ共通の文献を選定し、レポーター報告を実施する。	
	第5回	文献研究③	テーマ共通の文献を選定し、レポーター報告を実施する。	
	第6回	文献研究④	テーマ共通の文献を選定し、レポーター報告を実施し、ヒヤリング および、フィールドワーク先の選定を行う。	
	第7回	フィールドワーク準備①	当事者`ヒヤリングやフィールドワークの注意、手法や注意事項を確認する。	
	第8回	フィールドワーク準備②	調査・ヒヤリング項目の確認および準備を行う。	
	第9回	フィールドワーク準備③	調査・ヒヤリング項目の確認および準備を行う。	
	第10回	フィールドワーク準備④	調査・ヒヤリング項目の確認および準備を行う。	
	第11回	ヒヤリング調査またはフィールドワーク①	ヒヤリング調査またはフィールドワークの実施。	
	第12回	ヒヤリング調査またはフィールドワーク②	ヒヤリング調査またはフィールドワークの実施。	
	第13回	フィールドワークのまとめ①	ヒヤリング調査またはフィールドワーク情報・データを分析・まとめ。	
	第14回	フィールドワークのまとめ②	ヒヤリング調査またはフィールドワーク情報・データを分析・まとめ。	
	第15回	報告書作成および報告	データ・調査内容を報告書としてまとめ報告を実施する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		ゼミメンバーとともに人数にもよるが、テーマを決定し、グループ活動を中心に調査・研究を進めていく。前半は基礎学習として文献・論文講読をレポーターを決定し報告していく。		
授業外学習の指示		テーマによってはフィールドワーク、関係機関や当事者へのヒヤリングも予定している。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	文献や論文および資料は必要に応じて紹介をする。
参考書	適宜、必要に応じて紹介をする。
参考URLなど	テーマ別にその都度紹介をする。
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	裴鍾民	担当教員					

授業の概要	現代の企業活動に必須となっているITを理解し、それに基づいた企業のマーケティング活動を学習しながら、実践的なITマーケティング戦略が考えられる力を養成することを目標とする。参考文献の学習(理論的な知識)だけではなく、様々な企業や組織の成功事例と失敗事例(現場知識)を中心に学習することで、即戦力のあるマーケティング戦略をまとめることを目指す。						
到達目標	① 自ら意義のあるテーマを選定し、論理的にまとめることができる。 ② 特定の事例又は社会現象をマーケティングの観点から分析し、まとめ発表することができる。 ③ テーマに関するデータを収集及び分析し、議論(グループディスカッション)することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	自らテーマに関する資料(文献及び事例)を収集し、文書としてまとめる必要がある。 資料に関する疑問が生じる場合には、その点も詳しく調べ整理すること。作成した文書に関して、他人からの質問を予測し答えられる準備しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
① 問題意識を明確にし、課題として整理できる。 ② 文献著者の論理を理解した上で、指定量以内に要約することができる。 ③ 要約に関する自らの意見を論理的にまとめることができる。 ④ ②と③の内容をして時間以内に発表することができる。	① 問題に関して自分の意見を論理的にまとめることができる。 ② 他人に自分の意見を効率よく伝えることができる。 ③ 他人からの意見を批判的に受容し、自分の意見を調節することができる。 ④ 問題意識又は意見の表明、議論、文書の整理など、ゼミ活動に積極的に参加することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○	○			15%
レジュメ作成	○	○			○		35%
発表(プレゼンテーション)	○	○			○		35%
質疑応答		○	○	○			15%
出席			○	○			加点はしないが、 減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2. グループでの調査内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。 3. 研究対象や研究方法について、適宜コメントする。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	説明と質疑応答	
	第2回	文献の購読・発表1	演習と質疑応答	
	第3回	文献の購読・発表2	演習と質疑応答	
	第4回	文献の購読・発表3	演習と質疑応答	
	第5回	文献の購読・発表4	演習と質疑応答	
	第6回	文献の購読・発表5	演習と質疑応答	
	第7回	グループ研究のテーマ検討1	演習と質疑応答	
	第8回	グループ研究のテーマ検討2	演習と質疑応答	
	第9回	グループ研究のテーマと目的決定	演習と質疑応答	
	第10回	研究方法の検討1	演習と質疑応答	
	第11回	研究方法の検討2	演習と質疑応答	
	第12回	調査実施1	演習と質疑応答	
	第13回	調査実施2	演習と質疑応答	
	第14回	調査結果の整理・分析1	演習と質疑応答	
	第15回	調査結果の整理・分析2	演習と質疑応答	
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方		演習形式を基本とする。		
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	適宜、演習内で紹介する。
参考書	適宜、演習内で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	この演習は、文献調査・発表やグループ実験・調査などを通して、卒業研究に必要とされる基礎的知識と技能の修得を目的とする。欠席はゼミ活動に支障をきたすため、必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する際は事前に担当教員に連絡すること。

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	和足憲明	担当教員					

授業の概要	【目的】①社会科学の思考方法を身につける。 ②勉強のやり方を身につける。 ③質の高い卒業論文を書きあげる。 【概要】①テキストの輪読(担当者を決めてレジュメに基づいて報告する)。 ②各自の関心テーマの報告。 (i)興味のあるテーマの文献を2・3冊選んで要約し、自分の意見をつけて報告する。 (ii)関心のあるテーマについて、問い、答え、根拠の大枠を報告する。 (iii)卒業論文について、上記の問い、答え、根拠を踏まえて、論文の構想を報告する。						
到達目標	①入門テキストを用いて輪読を進める。その上で、各自のテーマと問いを早く確定させる。 ②各自の関心テーマについて、問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を簡潔に報告する。 ③卒業論文を執筆する。まず、『論文の教室』を輪読する。次に、各自の報告と議論を通じて論文を仕上げる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	【勉強方法】1. 報告に向けて、入念に準備をする。報告者ではない場合は、当日の報告者の今までの報告資料に目を通す。 2. 報告して気が付いた点、勉強になった点、他者の意見などを、自分なりにまとめる。 3. 次の報告に向けて、草稿をブラッシュアップする。 【事前に履修しておくことが望ましい科目】政治学入門、地域公共政策の基礎、政治学、地域行政論、公法演習、政治学演習 【履修する上で求められる知識】中学・高校で学んだ公民の知識、中学・高校で学んだ政治経済の知識						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. ゼミの時間に視聴したDVD、輪読した本の要点を理解している。 2. 研究テーマの決定、論文執筆に必要な文献リストの作成、研究計画の立案ができる。 3. 参考文献やデータを取得し、論文の草稿となるレジュメを作成できる。 4. 授業内での検討、議論をもとに、適宜論文の草稿の修正を行うことができる。 5. ゼミで与えられた役割を果たすことができる。	1. ゼミの時間に視聴したDVD、輪読した本の要点を理解し、論文執筆に必要なことを実践できる。 2. 研究テーマの決定、論文執筆に必要な文献リストの作成、研究計画の立案が、具体的かつ実現可能な段階まで達している。 3. 妥当性・信頼性の高いデータや参考文献を取得し、分析ができる。 4. 報告の際に出た質問に対して、説得力のある回答ができる。また議論、検討した内容を反映して、論文の草稿を適宜修正・改善できる。 5. ゼミで与えられた役割をしっかりとこなし、その上で他者の報告にも有益なコメントをすることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		50%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		50%

課題、評価のフィードバック	①文献報告と論文構想の報告に対して議論、検討を行い、改善点を指摘する。 ②報告や論文の草稿を添削し、返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	全体の流れの説明。 各自の関心テーマについて一言で概要を述べてもらい、改善点等を検討、議論する。	
	第2回	『情報の達人 第2巻 ゼミ発表をしよう！』視聴	『情報の達人 第2巻 ゼミ発表をしよう！』を視聴して、ゼミ発表の流れ、ゼミ発表に必要なことを理解する。	
	第3回	『情報の達人 第3巻 論文・レポートを書こう！』視聴	『情報の達人 第3巻 論文・レポートを書こう！』を視聴して、卒業論文作成の流れ、必要なことを理解する。	
	第4回	『論文の教室』輪読(1)	『論文の教室』の該当箇所を輪読し、要点を整理する。	
	第5回	『論文の教室』輪読(2)	『論文の教室』の該当箇所を輪読し、要点を整理する。	
	第6回	『論文の教室』輪読(3)	『論文の教室』の該当箇所を輪読し、要点を整理する。	
	第7回	『論文の教室』輪読(4)	『論文の教室』の該当箇所を輪読し、要点を整理する。	
	第8回	論文構想の報告(1)	各自の関心テーマについて、問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を報告する。各自の報告に対して、教員、他の出席者のコメントを踏まえた修正を行う。	
	第9回	論文構想の報告(2)	各自の関心テーマについて、問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を明確にした論文構想を報告する。各自の報告に対して、教員、他の出席者のコメントを踏まえた修正を行う。	
	第10回	文献リストの報告(1)	各自の関心テーマについて作成してきてもらった文献リストに対して、検討、議論をする。授業内で出たコメントを反映させて、次回までに文献リストを修正する。	
	第11回	文献リストの報告(2)	各自の関心テーマについて作成してきてもらった文献リストに対して、検討、議論をする。授業内で出たコメントを反映させて、次回までに文献リストを修正する。	
	第12回	各自のテーマに関する文献報告(1)	各自の関心テーマに関する文献について作成したレジュメについて、検討、議論をする。検討、議論を踏まえて修正が必要な部分を整理する。	
	第13回	各自のテーマに関する文献報告(2)	各自の関心テーマに関する文献について作成したレジュメについて、検討、議論をする。検討、議論を踏まえて修正が必要な部分を整理する。	
	第14回	論文構想の報告(3)	各自の関心テーマについて、問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を報告する。各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	第15回	論文構想の報告(4)	各自の関心テーマについて、問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を報告する。各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	試験	定期テストは実施しない。		
授業の進め方		報告者による質疑応答を中心に、報告に関して議論、検討をする。		
授業外学習の指示		1. 論文作成にあたり、先行研究に関する文献を読み込む。(毎週120分程度) 2. 論文作成の準備を計画的に行う。(毎週60分程度) 3. 論文を計画的に執筆し、授業内における検討、議論に基づき適宜論文を修正する。(毎週120分程度) (授業外学習時間: 毎週 300 分)		

教科書	必要に応じて、適宜指示する。
参考書	必要に応じて、適宜指示する。
参考URLなど	なし。
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	名取洋典	担当教員					

授業の概要	心理学とその関連領域から、各自の関心に基づいて研究文献を選択し、発表と討論等を行う。文献講読を通して、専門的な論文を読む力を養い、心理学における論理展開、研究方法、統計処理の実際、結果の解釈と考察の仕方等について知ることを目的とする。						
到達目標	1 心理学における論理展開について理解できる 2 心理学における研究方法、統計処理方法について説明できる 3 心理学における研究結果の解釈と考察の仕方について説明できる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	日常的な出来事、社会的な出来事に関心を持ち、ゼミ内で扱った問題がどのように日常生活とつながるのかを考え続けることが大切です。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 心理学における論理展開したがって発表資料をまとめることができる 2 心理学における研究方法、統計処理方法について文献の表現のとおり説明できる 3 心理学における研究結果の解釈と考察の仕方について文献の表現のとおり説明できる	1 心理学における論理展開にしたがい、かつ、内容が伝わるような工夫をして発表資料をまとめることができる 2 心理学における研究方法、統計処理方法について文献の表現から逸脱せずに、自分の言葉で説明できる 3 心理学における研究結果の解釈と考察の仕方について文献の表現から逸脱せずに、自分の言葉で説明できる

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業時の発表	○	○	○	○	○		40%
討論への参加度 (manab@上も含む)	○	○	○	○	○		40%
課題レポート	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	1 ゼミにおける討論の中で、準備されたレジュメについてのコメントをする 2 ゼミにおける討論の中で、今後の課題についてコメントする
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション1	文献検索方法の紹介をする。	
	第2回	オリエンテーション2	共同学習の意義について解説する。共同学習のマインドを育む。	
	第3回	文献の紹介と討論1	演習と質疑応答	
	第4回	文献の紹介と討論2	演習と質疑応答	
	第5回	文献の紹介と討論3	演習と質疑応答	
	第6回	文献の紹介と討論4	演習と質疑応答	
	第7回	文献の紹介と討論5	演習と質疑応答	
	第8回	文献の紹介と討論6	演習と質疑応答	
	第9回	文献の紹介と討論7	演習と質疑応答	
	第10回	文献の紹介と討論8	演習と質疑応答	
	第11回	文献の紹介と討論9	演習と質疑応答	
	第12回	文献の紹介と討論10	演習と質疑応答	
	第13回	文献の紹介と討論11	演習と質疑応答	
	第14回	文献の紹介と討論12	演習と質疑応答	
	第15回	まとめ	前期を振り返りながら、課題レポートのテーマを発表する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		発表の順番を各自で回しながら、演習形式で行う。		
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	指定しない。
参考書	適宜、紹介する。
参考URLなど	
その他	manab@IMUを使った課題提出を求める。また、資料配布を行う。授業外の討論を掲示板で行う。

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	末次 晃	担当教員					

授業の概要	卒業論文作成にあたっては、広く先行研究にあたり、当該研究テーマの流れを把握し、具体的な実験・調査の方法、データの処理方法などを把握しておかねばならない。そうした研究の基礎力を身につけることが本講義の目標である。本演習では、研究論文を読み、内容を簡潔にまとめたレジュメを作成し、それをもとに口答で発表し、ゼミ内で討論する。専門ゼミ1では、とくに、文献検索方法、文献の選択方法、内容把握のためのコツ、要点のまとめ方、レジュメの作成、口答発表や質疑応答のやり方などの基本的な技法の修得に重点をおく。						
到達目標	1. 専門の論文が検索できる。 2. 専門の論文を読みこなすことができる。 3. 読んだ論文内容を簡潔にまとめた上で、他者に的確に伝えることができる。 4. 読んだ論文の内容に関する質問に対し適切に答えることができる。 5. 他者の発表に対して、適切な質問を行うことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	論文の読み方の基本的スキル(パラグラフリーディング)を再度確認しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 論文を読み、内容を理解することができる。 2. 論文内容を簡潔にまとめ、レジュメを作成することができる。 3. 発表に対して、質問をすることができる。 4. 質問に回答することができる。	1. 論文を批判的に読み、内容を理解した上で、その論文の問題点をも指摘することができる。 2. 論文内容を簡潔にまとめ、自分の意見も入れながら、レジュメを作成することができる。 3. 発表に対して、的を得た質問をすることができる。 4. 質問に対して、質問者が理解・納得できる適切な回答ができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
情報検索	○	○	○				10%
レジュメ	○	○			○		25%
発表	○	○	○	○	○		25%
質疑応答	○	○		○	○		25%
授業への貢献度			○	○			15%
出席							加点はなし。欠席は減点することがある。

課題、評価のフィードバック	1. 検索した論文に対し、選択のポイントをアドバイスする。 2. 作成したレジュメについて、改善点をアドバイスする。 3. 発表や質疑応答の方法について改善点をアドバイスする。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	この授業全体の到達目標と内容および進め方を説明する。	
	第2回	情報検索	図書館やインターネットの論文検索サイトを利用して、自分のテーマ、設定したキーワード当てはまる研究論文を見つけることを練習する。	
	第3回	口答発表の準備作業の演習1	指定された論文を読み、ポイントを理解し、論文の要点をまとめて、それを人に説明できるようになる。	
	第4回	口答発表の準備作業の演習2	論文内容を簡潔にまとめたレジュメを作成する。	
	第5回	口答発表の準備作業の演習3	レジュメを使った口頭発表の方法、ポイントを説明し、自らができるようにするように練習する。	
	第6回	口頭発表	論文をレジュメを使って口頭で発表し、その後、質疑応答を行う。	
	第7回	発表準備 1-1	テーマを選定し、そのテーマに関連する論文を検索し、複数の発表論文候補を選ぶ。	
	第8回	発表準備 1-2	選んだ複数の論文を比較し、ひとつに絞る。当該論文を読み、不明な点があれば、辞書等に当たって調べつつ、内容を把握する。	
	第9回	発表準備 1-3	論文内容を要約し、レジュメにまとめ、具体的な聴き手を想定し、口頭発表の仕方を工夫し、分かりやすく説明できるようになる。	
	第10回	口答発表 1-1	論文をレジュメを使って口頭で発表し、その後、質疑応答を行う。	
	第11回	口答発表 1-2	論文をレジュメを使って口頭で発表し、その後、質疑応答を行う。	
	第12回	発表準備 2-1	テーマを選び、そのテーマに関連する論文を検索し、その中から発表論文を選択する。	
	第13回	発表準備 2-2	当該論文を読み、不明な点があれば、辞書等に当たって調べつつ、内容を把握する。論文内容を要約し、レジュメにまとめ、具体的な聴き手を想定し、口頭発表の仕方を工夫し、分かりやすく説明できるようになる。	
	第14回	口答発表 2-1	論文をレジュメを使って口頭で発表し、その後、質疑応答を行う。	
	第15回	口答発表 2-2	論文をレジュメを使って口頭で発表し、その後、質疑応答を行う。	
	試験			
授業の進め方				
授業外学習の指示		ゼミ内での発表準備(論文検索、選択、読み込み、まとめ、レジュメの作成)および分からない事柄を調べておく。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	適宜、紹介する。
参考URLなど	とくになし。
その他	欠席をすると進行に支障をきたすことがあるので、やむを得ない事情がある場合以外は欠席しないこと。 情報のやりとりや議論にmanaba@IMUを利用する。

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	田中美和	担当教員					

授業の概要	本演習では「キャリア」の研究を行うにあたり、キャリアに関する文献の講読を通じて、諸理論を理解するだけでなく、論文の構成や情報収集の方法など、基本的なアカデミックスキルを身に付ける。また、レジュメの作成や発表、ディスカッションを通じて、自分の考えを明らかにし、他人に伝える技術を習得する。						
到達目標	1. 文献を読み、要約やレジュメ作成を通じて論文の構成を理解する。 2. キャリアに関する諸理論を理解する。 3. 今後のテーマとなりうる自分の関心事を見つけ、説明できる。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	社会のさまざまな事象と人のキャリアを関連付けて考える習慣を身に付けておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・文献を読み、その内容をレジュメにまとめることができる。 ・自分の関心に沿って、文献検索ができる。 ・論文の構成を理解する。 ・キャリアの諸理論を理解する。	・文献を批判的に読み、その内容をレジュメにまとめ、考察を加えることができる。 ・自分の関心に沿って、文献検索ができる。 ・講読した文献の構成を説明することができる。 ・キャリアの諸理論を理解し、説明することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○		○		10%
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		30%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			30%
発表(プレゼンテーション)	○	○	○		○		20%
ディスカッションへの参加	○	○	○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	レジュメ作成、発表時に適宜実施する。 発表内容やゼミ内での発言内容については議論のなかで意見交換を行う。 授業内容に関する質問には随時対応する。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション	自己紹介を行い、自分の関心事について発表する。ゼミの進め方について説明を行う。	
	第2回	キャリア理論①	主なキャリア理論を理解する。	
	第3回	キャリア理論②	主なキャリア理論を理解する。	
	第4回	キャリア理論③	主なキャリア理論を理解する。	
	第5回	文献購読①	キャリア理論に関する文献を読んでレジメを作成し、発表する。	
	第6回	文献購読②	キャリア理論に関する文献を読んでレジメを作成し、発表する。	
	第7回	文献購読③	キャリア理論に関する文献を読んでレジメを作成し、発表する。	
	第8回	文献購読④	キャリア理論に関する文献を読んでレジメを作成し、発表する。	
	第9回	文献購読⑤	キャリア理論に関する文献を読んでレジメを作成し、発表する。	
	第10回	論文検索と講読①	関心のあるテーマに沿って探した論文のレジメを作成し、発表する。	
	第11回	論文検索と講読②	関心のあるテーマに沿って探した論文のレジメを作成し、発表する。	
	第12回	論文検索と講読③	関心のあるテーマに沿って探した論文のレジメを作成し、発表する。	
	第13回	問いを立てる①	自分の関心のあるテーマについて発表し、ゼミ内でディスカッションをおこなう。	
	第14回	問いを立てる②	自分の関心のあるテーマについて発表し、ゼミ内でディスカッションをおこなう。	
	第15回	問いを立てる③	自分の関心のあるテーマについて発表し、ゼミ内でディスカッションをおこなう。	
	試験			
授業の進め方				
授業外学習の指示		文献の講読やレジメの作成、発表準備等を行う。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	授業時に指示する
参考書	授業時に指示する
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	中尾剛	担当教員					

授業の概要	1. インターネットサーバOSのUNIXについて説明できる。 2. 基本的な電子部品の役割を説明できる。 3. プログラムの基本構成を説明できる。 4. 仕様を実現するための方法を提案することができる。						
到達目標	1. インターネットサーバOSのUNIXについて説明できる。 2. 基本的な電子部品の役割を説明できる。 3. プログラムの基本構成を説明できる。 4. 仕様を実現するための方法を提案することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	講義内で提示されるキーワードは必ず書き出し、その意味を説明できるようにする。定義だけではなく、活用例、危険性についての考え方も重要であることを理解しておく。講義で示されるまとめのスライドなどを自分の言葉で説明できるようになることを一つの目標として学習に取り組む。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
① サーバOSであるUNIXの簡単な操作ができる。 ② 基本的な電子部品の役割を説明できる。 ③ プログラムの基本構成を説明できる。 ④ 仕様を実現するための方法を提案することができる。	① UNIXの基本概念を説明し、サーバ上でファイルの編集を行うことができる。 ② マイコンを構成する電子部品について仕様を説明できる。 ③ プログラムの基本命令を組み合わせでて所要の処理を記述できる。 ④ 他者の提案した仕様を評価し、改善点を提案できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○				○		20%
授業態度・授業への参加			○	○			10%
マイコン製作	○	○	○	○	○		20%
プログラム	○	○	○	○	○		20%
作品発表	○	○			○		30%

課題、評価のフィードバック	実習で作成したゲームや外部機器は相互評価を行う。
---------------	--------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	専門ゼミとは(ガイダンス)	本演習の進め方、学べき目標と課題について理解し、個別・グループ学習の年間スケジュールなど説明する	
	第2回	UNIXの基礎1	インターネットサーバのOSについて説明する	
	第3回	UNIXの基礎2	UNIXの基本コマンドについて説明する	
	第4回	UNIXの基礎3	UNIXのファイルシステムについて説明する	
	第5回	UNIXの基礎4	viエディタについて説明する	
	第6回	UNIXの基礎5	簡単なシェルスクリプトについて説明する	
	第7回	マイコン製作1	マイコンを構成する電子部品について説明する	
	第8回	マイコン製作2	マイコン基板に電子部品を取り付けて組み立てる	
	第9回	マイコン製作3	マイコンの起動と動作確認を行う	
	第10回	プログラムの基礎1	プログラムの基本コマンドを説明する	
	第11回	プログラムの基礎2	処理の基本となる3つの流れについて説明する	
	第12回	プログラムの基礎3	基本コマンドを組み合わせる複雑な処理を行う	
	第13回	総合演習1	作成したマイコンでプログラミングを行い簡単なゲームを作成する	
	第14回	総合演習2	作成したマイコンでプログラミングを行い簡単なゲームを作成する	
	第15回	総合演習3	それぞれ作成したプログラムをレビューする	
	試験	実施しない		
授業の進め方		基本的に説明と実習を行う。毎回最後に進捗を確認する。		
授業外学習の指示		manab@IMUで提示する資料を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず教科書で確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する資料の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	なし
参考書	講義中に紹介する
参考URLなど	講義中に紹介する
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	大島典子	担当教員					

授業の概要	心理学研究の基本的な方法論について理解する。各自の興味・関心事項や、身近な臨床心理学的事象と、心理学研究のつながりについて文献を通して検討し、今後の研究テーマを探ることを目的とする。そのために毎回レポートを課すので、出されたテーマについて自分の考えをまとめ、他者にわかるよう、適切に表現できるようにする。						
到達目標	1. 自らの関心を心理学の概念として説明できる。 2. 研究テーマを設定することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	日頃から身近な心理学的事象について興味関心を持ち、わからないことはそのままにせず、調べておくこと。その際、専門的な文献や論文などにもあたってみること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 自らの興味にもとづいた資料や文献を見つけ、わかりやすく発表することが出来る 2. 他のゼミ員の発表を聞き、自らの視点でそのことを考えることが出来る 3. 卒業研究を見据え、テーマを設定する	1. 自らの興味にもとづいた資料や文献を見つけ、わかりやすく発表し、質疑応答にて自分の考えを述べる事が出来る 2. 他のゼミ員の発表を聞き、自らの視点でそのことを考え、わかりやすく発表し、議論を深めることが出来る 3. 卒業研究を見据え、テーマを設定し、先行研究を検索する

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		50%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		50%

課題、評価のフィードバック	提出されたレポートは翌週コメントとともに返却する
---------------	--------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション	授業の進め方、専門ゼミ1, 2から卒業研究に至るまでの流れについて レポートの作成方法について	
	第2回	研究を進めるために①	研究の方法	
	第3回	研究を進めるために②	研究の方法	
	第4回	研究テーマ検討①	各自の発表と質疑応答	
	第5回	研究テーマ検討②	各自の発表と質疑応答	
	第6回	研究テーマ検討③	各自の発表と質疑応答	
	第7回	研究テーマ検討④	各自の発表と質疑応答	
	第8回	研究テーマ検討⑤	各自の発表と質疑応答	
	第9回	研究テーマ検討⑥	各自の発表と質疑応答	
	第10回	研究テーマの選定①	各自の発表と質疑応答	
	第11回	研究テーマの選定②	各自の発表と質疑応答	
	第12回	研究テーマの選定③	各自の発表と質疑応答	
	第13回	研究テーマの選定④	各自の発表と質疑応答	
	第14回	研究テーマの選定⑤	各自の発表と質疑応答	
	第15回	まとめ		
	試験	試験は実施しない		
授業の進め方				
授業外学習の指示		発表に関する準備(資料検索、資料作成) (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	使用しない。プリント配付。
参考書	適宜紹介する。
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	大原貴弘	担当教員					

授業の概要	人間の心理・行動についての学問的理解を深め、心理学研究を行う上で必要となる基礎的知識と技能の修得を目的とする。具体的には、卒業研究の実施に向けて、研究テーマの決定、関連文献の講読、その内容についてのレジュメ作成、グループ研究の実施、ならびに卒業研究の目的・方法の検討を行う。						
到達目標	1. 心理学の研究文献を検索し、その内容をレジュメにまとめ、発表することができる。 2. 心理学の研究手法や統計手法を説明・実践し、グループ活動ができる。 3. 研究について自分の意見をまとめ、ゼミ内で議論ができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	文献講読、レジュメ作成、ならびに発表については、十分な事前準備が必要である。特に自分が発表する文献内で不明な点がある場合には必ず発表前に調べておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 文献を読み、文章の構造を理解した上で、レジュメを作成できる。 2. 作成したレジュメに基づいて、指定した時間内で発表できる。 3. 聴衆からの質問に対する答えを、文献内から見つけ出すことができる。 4. 心理学の研究手法や統計手法について説明できる。 5. ゼミ活動へ興味をもち、自分の役割を担うことができる。	1. 文献を批判的に読み込み、自分の意見や疑問も盛り込んだレジュメを作成できる。 2. 聴衆の理解度を確認し、柔軟に内容を調整しながら発表できる。 3. 聴衆からの質問に対して、自分の考えをまとめて答えることができる。 4. 心理学の研究手法や統計手法を応用的に実践できる。 5. ゼミ活動へ興味をもち、不明な点について自発的に調べたり、考えたりできる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		40%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		40%
授業態度・授業への参加			○	○			20%
出席			○	○			加点はしないが、 減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2. グループ実験・調査の内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。 3. 分析結果の手法・解釈について、適宜コメントをし、より妥当性の高い結論を導いてゆく。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス・自己紹介	説明と質疑応答	
	第2回	グループ研究のテーマ検討1	演習と質疑応答	
	第3回	グループ研究のテーマ検討2	演習と質疑応答	
	第4回	文献の講読・発表1	演習と質疑応答	
	第5回	文献の講読・発表2	演習と質疑応答	
	第6回	文献の講読・発表3	演習と質疑応答	
	第7回	グループ研究の目的決定	演習と質疑応答	
	第8回	研究方法の検討1	演習と質疑応答	
	第9回	研究方法の検討2	演習と質疑応答	
	第10回	実験・調査実施の準備1	演習、実習と質疑応答	
	第11回	実験・調査実施の準備2	演習、実習と質疑応答	
	第12回	実験・調査実施1	演習、実習と質疑応答	
	第13回	実験・調査実施2	演習、実習と質疑応答	
	第14回	結果の分析・考察1	演習、実習と質疑応答	
	第15回	結果の分析・考察2	演習、実習と質疑応答	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		授業内容についての説明の後、教員の指示に従って、作業を進める。あるいは、まとめてきた課題について発表した後、質疑応答・議論を行う。次回までの課題を出すこともある。		
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	適宜、演習内で紹介する。
参考書	適宜、演習内で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	この演習は、文献調査・発表やグループ実験・調査などを通して、卒業研究に必要とされる基礎能力の習得を目的とする。欠席するとゼミ活動に支障をきたすので、できる限り出席すること。

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	西村康平	担当教員					

授業の概要	文献講読、文献紹介、ディスカッション、個人プレゼンテーション等を通し、自然言語を対象とした研究を行う上で必要となる基礎的知識、技能の獲得を目指す。また、各自の卒業研究における研究テーマの方向性に関して検討する。						
到達目標	1. 卒業研究の方向性を決定する。 2. 卒業研究、卒論執筆に必要な知識、技能を得る。 3. 習得した知識・技能を用いてプレゼンテーション、レポート執筆を行う。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献講読、文献紹介、個人プレゼンテーション、レポート執筆などは卒業研究に関連付けて取り組むこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 取り上げた文献の内容について理解し、自身の意見を述べることができる。 2. 卒業研究の方向性について、大まかに示すことができる。 3. 個人プレゼンテーション、レポート執筆を適切に行うことができる。	1. 取り上げた文献の内容について理解し、批判的に議論することができる。 2. 卒業研究の方向性について、今後に必要な取り組みを明確に示すことができる。 3. 個人プレゼンテーション、レポート執筆を、卒業研究につながる形で適切に行うことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業への参加の姿勢		○	○	○		○	40%
文献紹介／個人プレゼンテーション	○	○	○	○	○	○	30%
期末レポート	○	○	○		○	○	30%

課題、評価のフィードバック	レポートなどは採点し、コメントを記入した上で返却する。
---------------	-----------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	ゼミの概要、進め方等について説明する。	
	第2回	研究の方法(1)	学術研究の方法論について理解する。	テキストを使用
	第3回	研究の方法(2)	学術研究の方法論について理解する。	テキストを使用
	第4回	研究の方法(3)	学術研究の方法論について理解する。	テキストを使用
	第5回	研究の方法(4)	学術研究の方法論について理解する。	テキストを使用
	第6回	文献講読(1)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第7回	文献講読(2)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第8回	文献講読(3)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第9回	文献講読(4)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第10回	文献講読(5)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第11回	文献紹介(1)	各ゼミ生の研究に関係する文献を探し、紹介する。内容について、出席者全員でディスカッションを行う。	
	第12回	文献紹介(2)	各ゼミ生の研究に関係する文献を探し、紹介する。内容について、出席者全員でディスカッションを行う。	
	第13回	個人プレゼンテーション(1)	ゼミ生自身の研究に関するプレゼンテーションを行う。	
	第14回	個人プレゼンテーション(2)	ゼミ生自身の研究に関するプレゼンテーションを行う。	
	第15回	まとめ	ゼミで学んだ内容を確認する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		「文献講読」、「文献紹介」および「プレゼンテーション」ではゼミ出席者に担当を割り振る。担当者は準備を行っておくこと。		
授業外学習の指示		【予習】テキスト、文献の内容を把握しておく。(60分) 【復習】ゼミであつかった内容について、理解を確認しておく。(60分) (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	1.『新版 論文の教室』 戸田山和久 著、NHKブックス、ISBN: 978-4-14-091194-5 2. 配布プリント
参考書	
参考URLなど	
その他	ゼミに関する連絡事項はManab@IMUに掲載する。随時確認すること。

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	菅野昌史	担当教員					

授業の概要	この演習では、文献検索方法、文献の選択方法、正確な内容理解の方法、要約の方法、レジュメの作成、口頭発表や質疑応答の方法などの基本的な技法の修得及び向上を目的とする。具体的には、法社会学に関連する研究論文を読み、内容を簡潔にまとめたレジュメを作成し、それをもとに口頭で発表し、全体で議論するという活動を繰り返すことで、上記の各種技能の向上を目指していく。						
到達目標	1. 指定された文献を読み、その内容をレジュメにまとめることができる。 2. レジュメをもとに発表を行い、議論することができる。 3. ゼミ活動に興味をもち、ゼミ内での役割を担うことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	文献講読、レジュメ作成、発表には十分な準備が必要である。文献は繰り返し熟読するとともに、不明な点については他の文献等も参照して調べておくこと。自分なりに調べ、考えても分からなかった点を明確にしたうえで、ゼミに臨み、ゼミ内での議論を通じて、疑問の解消に努めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 指定された文献を読み、その内容をレジュメにまとめることができる。 2. レジュメをもとに発表を行い、ゼミ内で議論することができる。 3. 発表及び議論を通じて、自分の考えを説明することができる。 4. ゼミ活動に興味をもち、自分の役割を担うことができる。	1. 指定された文献を批判的に読み、その内容をレジュメにまとめることができる。 2. レジュメをもとに発表を行い、ゼミ内での議論を促進することができる。 3. 発表及び議論を通じて、自分の考えを深め、それを説明することができる。 4. ゼミ活動に興味をもち、自分の役割をより主体的に担うことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
レジュメ作成	○	○			○		
発表	○	○			○		
質疑応答		○	○	○			
授業態度・授業への参加		○	○	○			
出席			○	○			加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. レジュメの作成・発表の準備段階から、適宜コメントし、よりよい発表になるよう導いていく。 2. 発表・質疑応答の際に適宜コメントし、ゼミ内の議論がより深まるように導いていく。 3. 授業に関する質問や相談には随時応じる。 4. 最終評価に関しては学生からの要請があれば、その根拠を示し、説明する。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス	説明と質疑応答	
	第2回	年間計画の確定と報告で扱うテーマの決定	演習と質疑応答	
	第3回	ゼミテーマに関する文献の選定	演習と質疑応答	
	第4回	ゼミテーマに関する基礎的文献の講読①	発表と質疑応答	
	第5回	ゼミテーマに関する基礎的文献の講読②	発表と質疑応答	
	第6回	ゼミテーマに関する基礎的文献の講読③	発表と質疑応答	
	第7回	担当者による発表と質疑応答①	発表と質疑応答	
	第8回	担当者による発表と質疑応答②	発表と質疑応答	
	第9回	担当者による報告と討論③	発表と質疑応答	
	第10回	担当者による報告と討論④	発表と質疑応答	
	第11回	担当者による報告と討論⑤	発表と質疑応答	
	第12回	担当者による報告と討論⑥	発表と質疑応答	
	第13回	これまでの報告についての再検討①	発表と質疑応答	
	第14回	これまでの報告についての再検討②	発表と質疑応答	
	第15回	まとめと今後の課題の検討	発表と質疑応答	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的にゼミ内での発表と質疑応答を中心に進める。		
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献の熟読、レジユメの作成、発表の準備(疑問点の明確化、等)をしておく。ゼミ内での質疑応答で疑問が残った点については、文献等でさらに調べる。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	授業の中で適宜指示する。
参考書	授業の中で適宜指示する。
参考URLなど	授業の中で適宜指示する。
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	松本麻子	担当教員	松本麻子				

授業の概要	本演習では、日本文学研究を行うために必要な研究方法ならびに結果の分析方法を修得することを目標とする。具体的には、文献研究や文献講読、その内容についてのレジュメ作成、調査方法、問題提起の方法、ならびにゼミメンバー間でのグループディスカッションを行う。これらの活動を通じて、文学研究を行う上で必要とされる基礎的な能力を身につけ、今後の研究を円滑に進められるようにすることを目的とする。						
到達目標	1. 文学研究に必要な研究方法について説明できる。 2. 文学研究に必要な研究方法を実践できる。 3. 文学研究に必要な調査方法について説明できる。 4. 文学研究に必要な調査を実践できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	履修に必要な知識は特にないが、学びたい文学作品について調べ内容を把握しておくこと。勉強方法については授業で指示するが、自分でかなりの時間をかけて調査し発表するための資料を作成する必要がある。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・文学研究に必要な研究方法について理解できる。 ・文学研究に必要な研究方法を実践し、資料を作成できる。 ・文学研究に必要な調査方法について説明できる。 ・文学研究に必要な調査を助言をもとに実践できる。	・文学研究に必要な研究方法について理解でき、それを説明できる。 ・文学研究に必要な研究方法を実践し、論理的で明快な資料を作成できる。 ・文学研究に必要な調査方法について説明でき、また実践できる。 ・文学研究に必要な調査を実践し、論を立てることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		40%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		20%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			40%

課題、評価のフィードバック	1. レジュメ作成・発表の際に、適宜コメントし指導する。 2. 発表内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正していく。 3. 問題提起・調査の方法については、適宜コメントし、より妥当性の高い結論に到達するよう導いていく。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	演習の方法について	発表の方法、レジュメの作り方などについて。また、今年度読む作品について決定する。	
	第2回	担当教員の発表①	担当教員が、今年度読む作品について解説をする。	
	第3回	担当教員の発表②	担当教員が、今年度読む作品について発表し、質疑応答の練習をする。	
	第4回	発表演習①	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第5回	発表演習②	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第6回	発表演習③	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第7回	発表演習④	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第8回	発表演習⑤	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第9回	発表演習⑥	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第10回	発表演習⑦	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第11回	発表演習⑧	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第12回	発表演習⑨	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第13回	発表演習⑩	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第14回	発表演習⑪	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第15回	前期のまとめ	前期の作品を輪読し、どのようなことが問題となるのかを考える。レポートの「問い」について検討する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		作品を理解し、発表の方法・資料の作成の仕方・調査方法についてを、繰り返し実践しながら身につける。担当者は発表の際に、何が問題となるのか明確にし、参加者は予習を行った上で積極的な質疑応答をするように求める。		
授業外学習の指示		学習のアドバイスの項目と同様。また、発表の準備に関しては、発表時間の2倍以上の時間をかけて準備すること。 （授業外学習時間： 毎週 180 分以上）		

教科書	指定しない。
参考書	授業中に指示する。
参考URLなど	インターネットは使用しない。
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	小池久恵	担当教員					

授業の概要	イギリス文化・文学を研究する演習形式の授業。＜映画化された文学作品＞を題材に、歴史、思想、習慣、文化・社会事象などさまざまな視点からイギリスについて学ぶ。4年次の卒業論文作成に向けて、「何を・どのように書くか」を意識しながら、与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら意欲的にテーマを見出し、主体的に研究する姿勢を身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ゼミで取り上げる作家・作品・事項について文献を収集し、知識・理解を深める。 2. 映像資料研究を通して、歴史や時代との関連を考え意見を述べることができる。 3. イギリス文学・文化に関する評論を読み、内容を要約し説明できる。 4. 課題に沿った参考資料の収集や整理をおこない、研究の成果を発表することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	できるだけたくさんの文献を読み、関連映像を視聴すること。その際メモを取り要旨(またはあらすじ)をまとめる習慣をつけること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①ゼミで取り上げる作家・作品について要点を説明できる。 ②作品の映像資料研究を通して歴史や時代との関連から意見を述べることができる。 ③イギリス文学・文化に関する文献を読み、内容を要約できる。 ④課題に関するレジュメを作成し発表することができる。	①ゼミで取り上げる作家・作品について時代や社会を映すトピックを挙げながら説明できる。 ②作品の映像資料研究から歴史や時代との関連を読み取り、作品を総合的に評価することができる。 ③イギリス文学・文化に関する文献を読み、内容を要約するとともに、自分の意見をまとめることができる。 ④課題に関する文献を読み、発表内容を十分に伝えるレジュメを作成し、成果を発表することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○		○	○		50%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		50%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	ディスカッション時には適宜コメントや説明をし、提出課題には添削・返却及び解説をおこなう。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	前期授業の進め方や課題テキスト・作品・参考文献について確認する。	
	第2回	作品の分析(1)	ゼミで取り上げる作品について調べ、概要を述べる。	
	第3回	作品の分析(2)	作品のテーマを探り、時代や社会を映すトピックを列挙して説明する。	
	第4回	作品の分析(3)	関連資料を整理し、作品を総合的に評価する。	
	第5回	文化的背景の検討(1)	作品分析により、歴史や時代との関連から意見を述べる。	
	第6回	文化的背景の検討(2)	作品分析により、社会状況や制度・慣習との関連から意見を述べる。	
	第7回	文化的背景の検討(3)	作品分析により、文化的背景をふまえ意見を述べる。	
	第8回	批評の方法(1)	イギリス文学に関する評論を読み、内容を要約し説明する。	
	第9回	批評の方法(2)	イギリス文化に関する批評を読み、関連事項を調べてまとめる。	
	第10回	批評の方法(3)	映像作品とテキストとの表現の特徴を比較し説明する。	
	第11回	課題の発表(1)	課題のテーマ別に参考資料の収集や整理を行い、要点を説明する。	
	第12回	課題の発表(2)	課題のテーマ別に参考資料の収集や整理を行い、要点を説明することができる。	
	第13回	課題の発表(3)	レジュメを作成し、課題に取り組んだ成果を発表する。	
	第14回	課題の発表(4)	レジュメを作成し、課題に取り組んだ成果を発表する。	
	第15回	まとめのペーパー作成と発表	これまでの研究内容をふまえ、自ら選んだテーマでペーパーを作成し、レジュメや資料をもとに発表する。	
	試験	実施しない。		
授業の進め方		作品(映像)研究、文献研究、発表、ディスカッション、レポート提出が主なゼミ活動となる。		
授業外学習の指示		課題に従い文献・資料を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。 ゼミ内容の疑問点や不明な点は明確にし、課題の修正点は調べ直しておくこと。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
参考URLなど	適宜紹介する。
その他	専門ゼミは文献・映像研究などを通して、卒業研究に必要な研究態度や手法の習得を目的とするため、毎回必ず出席し積極的に参加すること。

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	山本佳子	担当教員					

授業の概要	各自の興味関心をもとに、精神障害、不登校、職場不適応等のメンタルヘルスにかかわる問題や認知機能能力と心理的問題との関係、偏見などについて、どのように理解し、対処していったら良いのか、文献を通して検討し、今後の研究テーマを探る。						
到達目標	1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。 2. 課題解決のために、先行研究を探し、理解する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	毎回、事前に各自の課題に従って調べ、レポートにまとめることになる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。 2. 課題解決のために、先行研究を探し、理解する。	1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験や等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。 2. 課題解決のために、先行研究を探し、理解を深める。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○				○		50%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○	○			50%

課題、評価のフィードバック	作成されたレポートは、ゼミで発表し、その場でフィードバックする。
---------------	----------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション①	文献講読の意義、授業の具体的な進め方について説明できるようにする。また、文献検索の方法や購読の仕方について理解し、実行する。	
	第2回	オリエンテーション②	文献購読の仕方、記録の仕方などについて理解し実行する。	
	第3回	関心事の明確化①	各自が関心事を提示し、ディスカッションを通し、検討していく中で研究テーマになりそうな事項を明確化し発表する。	
	第4回	関心事の明確化②	各自が関心事を提示し、ディスカッションを通し、検討していく中で研究テーマになりそうな事項を明確化し発表する。	
	第5回	関心事の明確化③	各自が関心事を提示し、ディスカッションを通し、検討していく中で研究テーマになりそうな事項を明確化し発表する。	
	第6回	文献の検索①	各自の研究テーマになりそうな課題についての概説書や論文を検索し見つける方法について学ぶ。	
	第7回	文献の検索②	各自の研究テーマになりそうな課題についての概説書や論文を検索し見つける方法について学ぶ。	
	第8回	文献購読①	各自の研究テーマになりそうな課題についての概説書や論文を購読し、内容を発表する。	
	第9回	文献購読②	各自の研究テーマになりそうな課題についての概説書や論文を購読し、内容を発表する。	
	第10回	研究テーマの選定①	自らの関心ごとを研究の土台にできるよう、テーマを選定する。	
	第11回	研究テーマの選定②	自らの関心ごとを研究の土台にできるよう、テーマを選定する。	
	第12回	研究テーマの選定③	自らの関心ごとを研究の土台にできるよう、テーマを選定する。	
	第13回	文献購読④	各自の研究テーマになりそうな課題についての概説書や論文を購読し、内容を発表する。	
	第14回	文献購読⑤	各自の研究テーマになりそうな課題についての概説書や論文を購読し、内容を発表する。	
	第15回	まとめ	おのおのが検索してきた文献をまとめたレビュー(展望)を発表し、ディスカッションすることを通し、テーマに対するより一層の理解を深め、内容を絞り込む。	
	試験	試験は施行しない。		
授業の進め方		自分の興味関心に基づき、指示された方法で文献を検索し、基礎概念・周辺領域の知識を整理しながら自らのテーマを絞り込んでいく。資料から新しい内容を習得するたびに、レポートなどで、発表し、ディスカッションしながら進める。		
授業外学習の指示		自分の興味関心に基づき、指示された方法で文献を検索し、基礎概念・周辺領域の知識を整理しながら自らのテーマを絞り込んでいく。資料から新しい内容を習得するたびに、レポートなどで、発表し、ディスカッションしながら進める。 (授業外学習時間： 毎週 60 分)		

教科書	テキストは使用しない。
参考書	特になし
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	高木竜輔	担当教員					

授業の概要	本演習では地域社会が抱える課題を析出し、その解決に向けた思考力と実践力を身につける。まず、いわき市をフィールドとし、複数回にわたるフィールドワークにより地域社会が抱える課題について発見する。その前提として、地域社会を構造的に捉える枠組みについて、文献を通じて学習するとともに、併せて、地域社会が抱える課題を析出するための方法論について学ぶ。						
到達目標	1. 地域社会が抱える課題を理解することができる。 2. 地域社会が抱える課題を析出するための方法(フィールドワーク、官庁統計の分析)を習得し、実践することができる。 3. 地域社会学の理論を習得し、それを分析対象の地域を理解するために応用することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	日頃から身の回りの生活圏について観察をおこなうこと。新聞などを通じて何が地域社会の「問題」として語られているのか把握すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 地域社会が抱える問題について関心をもち、それについて理解することができる。 2. 地域社会を把握する方法について理解することができる。 3. 自らが生活する地域の課題について理解することができる。	1. 地域社会が抱える問題について関心をもち、それについて先行研究に位置づけながら理解することができる。 2. 地域社会学を把握する方法について理解し、それを実行することができる。 3. 自らが生活する地域の課題について理解し、その課題の解決策について提案することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
フィールドワーク	○	○	○				30%
文献講読・発表	○	○	○				40%
授業における議論への貢献度	○	○	○				20%
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2. フィールドワークの内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	メンバー自己紹介、授業内容の確認	
	第2回	フィールドワークの方法	フィールドワークの方法について議論する	
	第3回	フィールドワークの計画	フィールドワークの対象地など、当日の計画を検討する	
	第4回	フィールドワーク(1)	フィールドワークをおこなう	
	第5回	フィールドワーク(2)	フィールドワークをおこなう	
	第6回	フィールドワークの振り返り(1)	実施したフィールドワークについて、得られた発見・知見を発表する	
	第7回	フィールドワークの振り返り(2)	実施したフィールドワークについて、得られた発見・知見を発表する	
	第8回	文献講読(1)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第9回	文献講読(2)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第10回	文献講読(3)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第11回	文献講読(4)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第12回	文献講読(5)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第13回	フィールドワークの知見を振り返る(1)	フィールドワークの内容と、文献講読の内容をつきあわせて、いわき地域の課題について検討する	
	第14回	フィールドワークの知見を振り返る(2)	フィールドワークの内容と、文献講読の内容をつきあわせて、いわき地域の課題について検討する	
	第15回	フィールドワークの知見を振り返る(3)	フィールドワークの内容と、文献講読の内容をつきあわせて、いわき地域の課題について検討する	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		フィールドワークに際しては、対象地について事前の準備をしておくこと。ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。		
授業外学習の指示		当たり前だが、文献講読は全員が講読し、分からない所は事前に調べておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	文献については、フィールドワークを通じて得られた知見・議論を踏まえて選択するが、主な候補作は参考文献に示しておく。
参考書	諸富徹『人口減少自体の都市』中公新書、枝廣『地元経済を創りなおす』岩波新書、矢作弘『縮小都市の挑戦』岩波新書、飯田泰之ほか『地域再生の失敗学』光文社新書、大月敏雄『町を住みこなす』岩波新書、若林幹夫『郊外の社会学』ちくま新書、木下斉『稼ぐまちが地方を変える』NHK出版新書
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	高島翠	担当教員					

授業の概要	本講義では心理学の研究に必要な、心理学研究の意義と先行研究の調べ方、論文の構造の理解を目指す。さらに自身の興味のある文献を熟読し、内容をレジュメにまとめて発表をすること、さらに他者の発表を聞いて、積極的に討論に参加することを目標とする。						
到達目標	① 知覚・認知心理学分野における現象の理解をする ② 心理学に関する論文を読んでまとめることができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)							
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①文献を読んで、レジュメにまとめることができる。 ②レジュメをもとにグループで発表することができる。 ③グループでの発表を聞き、質問や意見を述べることができる。	①自らの興味に従って、適切な文献を選び、レジュメにまとめることができる。 ②レジュメをもとにグループで発表をし、質疑に答えることができる。 ③グループでの発表を聞き、質問や意見を述べることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○			60%
授業態度・授業への参加	○		○	○	○		40%
							加点にはしないが 減点する場合がある

課題、評価のフィードバック	必要に応じてフィードバックをおこなう
---------------	--------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション	今後1年間の予定を大まかに把握する	
	第2回	論文検索1	心理学に関する論文の検索方法を身につける	
	第3回	論文検索2	自分の興味のあるキーワードを用いて、論文を見つける	
	第4回	論文発表1回目	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する	
	第5回	論文発表1回目	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する	
	第6回	論文発表1回目	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する	
	第7回	知覚デモの作成1	仮現運動や運動立体視など、興味のある知覚デモを作成し、観察する	
	第8回	知覚デモの作成2	仮現運動や運動立体視など、興味のある知覚デモを作成し、観察する	
	第9回	知覚デモの作成3	仮現運動や運動立体視など、興味のある知覚デモを作成し、観察する	
	第10回	知覚デモの発表	自分たちで作成した知覚デモを観察し、紹介しあう	
	第11回	論文発表 2回目	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する	
	第12回	論文発表 2回目	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する	
	第13回	論文発表 2回目	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する	
	第14回	研究方法の習得	文献をもとに、心理学における実験の実施に必要な知識をまとめる	
	第15回	研究方法の習得	文献をもとに、心理学における実験の実施に必要な知識をまとめる	
	試験	実施しない		
授業の進め方				
授業外学習の指示		【復習】授業での指摘を参考に、実験実施に必要な情報を集めて確認する。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	使用しない
参考書	適宜紹介する
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	高橋義考	担当教員					

授業の概要	講義や実習で習得した基礎知識や専門知識と4年次における卒業研究との橋渡しになる重要な科目と位置づけ、ゼミナール形式で指導し、教員の経験を参考にしながら社会人としての人格を形成することを目的とする。						
到達目標	1. マイコンの操作方法を説明することができる 2. ロボット用プログラム開発手順を説明することができる 3. シミュレーションソフトウェアの利用方法を説明することができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	授業で分からなかった内容については、質問したり図書館で調べること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. マイコンのプログラミングと実行することができる。 2. ロボット制御の方法を説明することができる。 3. コンピュータシミュレーションのソフトウェア利用方法について説明することができる。	1. マイコンのプログラムに積極的に取り組み、目的通りの動作をするプログラムを完成させることができる。 2. ロボット制御の方法を説明することができる。また、二足歩行ロボットを制御することができる。 3. コンピュータシミュレーションのソフトウェア利用方法について説明することができる。また、ソフトウェアを利用してメカの運動解析とその評価を行うことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
マイコンのプログラミング	○	○			○		35%
ロボット制御	○	○			○		35%
コンピュータシミュレーション	○	○			○		30%
授業態度・授業への参加			○	○			加点はしない。欠席は減点対象となる。

課題、評価のフィードバック	1. 実験や演習に関する疑問や感想などについては、次回の授業でコメントする。 2. 提出されたレポートについては、評価基準を示した上で、返却する。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	マイコン基礎1	演習と質疑応答	
	第2回	マイコン基礎2	演習と質疑応答	
	第3回	マイコン基礎3	演習と質疑応答	
	第4回	マイコン基礎4	演習と質疑応答	
	第5回	マイコン基礎5	演習と質疑応答	
	第6回	マイコン基礎6	演習と質疑応答	
	第7回	プログラミング基礎1	演習と質疑応答	
	第8回	プログラミング基礎2	演習と質疑応答	
	第9回	プログラミング基礎3	演習と質疑応答	
	第10回	プログラミング基礎4	演習と質疑応答	
	第11回	プログラミング基礎5	演習と質疑応答	
	第12回	プログラミング基礎6	演習と質疑応答	
	第13回	プログラミング課題1	演習と質疑応答	
	第14回	プログラミング課題2	演習と質疑応答	
	第15回	プログラミング課題3	演習と質疑応答	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		マイコン端末を利用してプログラミングを行う。		
授業外学習の指示		授業で学んだ内容を整理し、まとめておくこと。 出題された課題は、授業外学習として独自に再度行い、コンピュータの各技術を身に着けること。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	配付資料に従って、実習を進めてゆく。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	窪田文子	担当教員					

授業の概要	本授業では、ゼミ生各自が日常生活の出来事や社会問題の中から関心を持つ事象を取り上げ、それについて臨床心理学的視点から理解をして説明できるように、専門性を深めていくことを目的とする。具体的には、専門書を参考にして臨床心理学的立場からの知見を調べてまとめ、それを発表して、ゼミ生相互で意見交換をする。また、ゼミ生全員で協力してゼミ調査を実施し、心理学で用いられる主な研究方法である調査法について実習を通して学習する。						
到達目標	1. 専門書を読みこなして、わかりやすくまとめて説明できる。 2. 他のゼミ生の発表を批判的思考を活用して聞き、質問ができる。 3. 調査法の手順について説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	専門書を読んでまとめること、まとめたことを他のゼミ生にわかるように発表することそれぞれについて、十分に時間をとって準備をすること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 文献を読みこなして、ポイントをまとめることができる。 2. ゼミメンバーからの質問に答えることができる。 3. ゼミメンバーと協力してゼミ調査を作成することができる。	1. 文献を読みこなして、ポイントを的確にまとめることができる。 2. ゼミメンバーからの質問に答え、それを通して理解を深めることができる。 3. ゼミメンバーと協力して主体的にゼミ調査作成に参加することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○	○			20%
発表資料作成	○	○					20%
発表(プレゼンテーション)		○			○		20%
質疑応答		○	○	○			20%
調査実習		○	○				20%

課題、評価のフィードバック	1.文献の発表については、適宜、コメントする。 2.調査計画については、ゼミ生のディカッションに対してフィードバックを行う。 3.結果の分析方法については、適宜コメントをし、適切なものに修正していく。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	説明と質疑応答	
	第2回	関心を持つテーマについて	演習と質疑応答	
	第3回	文献検索実習	演習と質疑応答	
	第4回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習1	演習と質疑応答	
	第5回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習2	演習と質疑応答	
	第6回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習3	演習と質疑応答	
	第7回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習4	演習と質疑応答	
	第8回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習5	演習と質疑応答	
	第9回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習6	演習と質疑応答	
	第10回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習7	演習と質疑応答	
	第11回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習8	演習と質疑応答	
	第12回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習9	演習と質疑応答	
	第13回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習10	演習と質疑応答	
	第14回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習11	演習と質疑応答	
	第15回	まとめ-各自がレポートしたテーマについて、理解できた点、さらに調べたい点を明らかにする。	演習と質疑応答	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方				
授業外学習の指示		授業での発表に先立ち、文献を読みこなしてわかりやすく発表資料をまとめること。また、ゼミメンバーからの質問で不明だった点は、調べなおしておくこと。 （授業外学習時間： 毎週 120 分）		

教科書	使用しない。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	金世煥	担当教員					

授業の概要	様々な企業や組織のマーケティング戦略を成功事例と失敗事例を中心に学習しながら、それに基づいて自分なりの実践的なマーケティング戦略案を論理的にまとめる力を養成することを目標とする。そのためには、多面的視点で柔軟性を持ちながら考える必要があり、理論(本)だけでは説明できない、現場で活用できる実践マーケティングを目指す。						
到達目標	1. マーケティング分野の基礎データを収集・分析し、まとめ発表することができる。 2. マーケティングの成功・失敗事例に関するデータを収集・分析し、グループディスカッションすることができる。 3. 関心あるテーマに関する研究を自分の力で進めていける基礎研究力が身に付ける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献購読、レジュメ作成、ならびにその発表については十分な準備が必要である。自分が発表する文献のなかで不明な点がある場合には、必ず発表前に調べておくこと。また、自分が発表担当ではない場合にも、文献を読み、質問できるように準備しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 文献を読み、文章の構造を理解した上で、レジュメを作成することができる。 2. 作成したレジュメにもとづいて、指定した時間内で発表できる。 3. 発表内容に関する質問に対して、答えを文献内から見つけ出すことができる。 4. ゼミ活動に参加し、自分の役割を担うことができる。	1. 文献を批判的に読み込み、自分の意見や疑問点についても言及しているレジュメを作成できる。 2. 聴衆の理解度を確認し、柔軟に内容を調整しながら発表できる。 3. 発表内容に関する質問に対して、文献の論点にもとづきながら自分の考えを整理して答えることができる。 4. 自発的に不明な点について調べたり、発言したりするなど、積極的にゼミ活動に参加することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○	○			15%
レジュメ作成	○	○			○		35%
発表(プレゼンテーション)	○	○			○		35%
質疑応答		○	○	○			15%
出席			○	○			加点はしないが、 減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2. グループでの調査内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。 3. 研究対象や研究方法について、適宜コメントする。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	説明と質疑応答	
	第2回	文献の購読・発表1	演習と質疑応答	
	第3回	文献の購読・発表2	演習と質疑応答	
	第4回	文献の購読・発表3	演習と質疑応答	
	第5回	文献の購読・発表4	演習と質疑応答	
	第6回	文献の購読・発表5	演習と質疑応答	
	第7回	グループ研究のテーマ検討1	演習と質疑応答	
	第8回	グループ研究のテーマ検討2	演習と質疑応答	
	第9回	グループ研究のテーマと目的決定	演習と質疑応答	
	第10回	研究方法の検討1	演習と質疑応答	
	第11回	研究方法の検討2	演習と質疑応答	
	第12回	調査実施1	演習と質疑応答	
	第13回	調査実施2	演習と質疑応答	
	第14回	調査結果の整理・分析1	演習と質疑応答	
	第15回	調査結果の整理・分析2	演習と質疑応答	
	試験			
授業の進め方				
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	適宜、演習内で紹介する。
参考書	適宜、演習内で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	この演習は、文献調査・発表やグループ実験・調査などを通して、卒業研究に必要とされる基礎的知識と技能の修得を目的とする。欠席はゼミ活動に支障をきたすため、必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する際は事前に担当教員に連絡すること。

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	玉懸 元	担当教員					

授業の概要	このゼミでは、次のようなことが研究できる。日本語とはどんな言語か／日本語は現在どのように変わりつつあるか／日本語を外国人にうまく教えるにはどうしたらよいか。また、効果的な日本語表現の技法を身に付けたい人、表現の幅を広げたい人があれば、その希望にも応える。 専門ゼミ1は、研究を行う準備として、ノートテイキング・情報収集・クリティカルリーディング・情報整理・研究発表（特にプレゼンテーションすなわち口頭発表）の手法について学び、また、論文・レポートの書き方を学ぶことを目的とする。 さらに、受講生が発表者となってプレゼンテーションの練習をすることも重要な目的である。発表テーマは教員が指定する。身近な日本語に関する問題をテーマとする予定である（授業計画の欄に予定のテーマを挙げておく）。						
到達目標	(1) ノートテイキング・情報収集・クリティカルリーディング・情報整理・研究発表（特にプレゼンテーションすなわち口頭発表）の手法について説明できる。 (2) (1)の手法に基づき、自ら実践できる。 (3) 論文・レポートの書き方について説明できる。 (4) (3)の書き方にしたがって、自ら論文・レポートを書くことができる。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な 予備知識など）	「日本語教育文法」「日本語学習アドバイジング」「日本語教育法1」「日本語教育法2」を履修することが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1) ノートテイキング・情報収集・クリティカルリーディング・情報整理・研究発表（特にプレゼンテーションすなわち口頭発表）の手法について説明できる。 (2) 論文・レポートの書き方について説明できる。	(1) ノートテイキング・情報収集・クリティカルリーディング・情報整理・研究発表（特にプレゼンテーションすなわち口頭発表）の手法について説明できる。 (2) (1)の手法に基づき、自ら実践できる。 (3) 論文・レポートの書き方について説明できる。 (4) (3)の書き方にしたがって、自ら論文・レポートを書くことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験（中間・期末試験）							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		60%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○			20%

課題、評価のフィードバック	原則として毎時間、授業の終わりに、当日の授業内容に関連する課題を提出してもらう。授業後、提出された課題から、クラス全体で共有しておくことが有益と考えられるものを選出する。翌週（原則）の授業で、選出しておいた課題を適宜プロジェクター等も活用しながらクラス全体に紹介し、教員のコメントを加える。以上をもって課題に対するフィードバックとする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	ガイダンスを行う。	
	第2回	ノートテイキングの手法	ノートテイキングの手法を学ぶ。	
	第3回	情報収集の手法	情報収集の手法を学ぶ。	
	第4回	クリティカルリーディングの手法	クリティカルリーディングの手法を学ぶ。	
	第5回	情報整理の手法	情報整理の手法を学ぶ。	
	第6回	プレゼンテーションの手法	プレゼンテーションの手法を学ぶ。	
	第7回	論文、レポートの書き方	論文、レポートの書き方を学ぶ。	
	第8回	プレゼンテーション練習(1) 予定テーマ:茶色い髪はなぜ「ちゃはつ」ではなく「ちゃぱつ」なのか。	プレゼンテーション練習を行う。	
	第9回	プレゼンテーション練習(2) 予定テーマ:「見れる」「来れる」は「乱れた日本語」か。	プレゼンテーション練習を行う。	
	第10回	プレゼンテーション練習(3) 予定テーマ:「彼氏」のアクセント。頭を高く言うか、全体を平たく言うか。	プレゼンテーション練習を行う。	
	第11回	プレゼンテーション練習(4) 予定テーマ:何時まで「おはよう」と言う?	プレゼンテーション練習を行う。	
	第12回	プレゼンテーション練習(5) 予定テーマ:「スマートでサステイナブルな東京を作る」?	プレゼンテーション練習を行う。	
	第13回	プレゼンテーション練習(6) 予定テーマ:「猫にエサをあげる」という日本語。どこがおかしいか?	プレゼンテーション練習を行う。	
	第14回	プレゼンテーション練習(7) 予定テーマ:「どんぶらこどんぶらこ」—日本語のオノマトペ	プレゼンテーション練習を行う。	
	第15回	プレゼンテーション練習(8) 予定テーマ:「フンズになった」—いわき市の若者の方言	プレゼンテーション練習を行う。	
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方		演習形式を基本とする。		
授業外学習の指示		参考書を活用しながら、各回の授業内容について予習・復習を行うこと。 （授業外学習時間： 毎週 180 分）		

教科書	適宜資料を配付する。
参考書	佐藤望ほか(2012)『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第2版』慶應義塾大学出版会/専修大学出版企画委員会(2009)『改訂版 知のツールボックス』専修大学出版会/山口裕之(2013)『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社/陣内正敬(1998)『日本語の現在 揺れる言葉の正体を探る』アルク
参考URLなど	適宜授業中に指示する。
その他	

科目名	専門ゼミ1			ナンバリング	RLA251	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	久呉高之	担当教員	久呉高之				

授業の概要	本演習は、「思考の冒険と謎解き」をテーマとして、根本的な事柄を「考える」ことを目標とする。哲学的問題から日常的問題まで、われわれの思考を駆り立てる諸問題について、トコトン考えつめてゆく。考える材料として知識は重要だが、考えなければ解らない、あるいはむしろ、いくら考えてもなかなか解らないような問題(謎)を皆で見つけ、それについて皆であれこれと、楽しく話し合う。						
到達目標	1. 西洋の思想・文化の根源をなす旧約の思想について説明することができる。 2. 西洋の思想・文化の骨幹をなすキリスト教精神の淵源について説明することができる。 3. 各々が関心・興味をもつ事柄について、どこがどのように面白いのか、人に的確に伝えることができる。 4. 卒論のテーマ候補として複数の論題を掲げ、議論の見通しをつけることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献や議論をもとにして、とにかく考えること。不明な哲学的概念については、必ず参考書で調べること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①西洋の思想・文化の根源をなす旧約の思想のポイントについて説明することができる。 ②西洋の思想・文化の骨幹をなすキリスト教精神の淵源について、その大要を説明することができる。 ③各々が関心・興味をもつ事柄について、どこがどのように面白いのか、人にそのポイントを伝えることができる。 ④卒論のテーマ候補として、複数の論題を掲げ、議論の見通しのポイントを見定めることができる。	①西洋の思想・文化の根源をなす旧約の思想の大要について、キリスト教と比較しながら説明することができる。 ②西洋の思想・文化の骨幹をなすキリスト教精神の淵源について、その大要を旧約の思想と比較しながら説明することができる。 ③各々が関心・興味をもつ事柄について、どこがどのように面白いのか、人に筋道を立てて伝えることができる。 ④卒論のテーマ候補として、複数の論題を掲げ、議論の見通しをレジュメによって明示することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
レジュメ作成	○	○	○		○		30%
プレゼン	○	○	○	○	○	○	30%
質疑応答	○	○	○	○	○	○	30%
授業態度・授業への参加			○	○	○	○	10%
出席			○	○			加点はしないが、減点 となることがある

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表のさいに、適宜コメントする。 2. 発表の内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正していく。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション	自己紹介を要領よく行なう。授業の方針や計画、心構えについて説明する。	
	第2回	旧約の世界	西洋の文化・文明の根源たる旧約の思想について、その大要を説明する。	
	第3回	新約の世界	西洋の思想・文化の骨幹をなすキリスト教精神の淵源について、その大要を説明する。	
	第4回	プレゼンテーションの方法	次回から行うプレゼンへの準備、心構えとして、プレゼンの仕方や注意について説明する。	
	第5回	テーマ・プレゼン 1	各々が関心・興味をもつ事柄について、どこがどのように面白いのか、人に伝える。	
	第6回	テーマ・プレゼン 2	各々が関心・興味をもつ事柄について、どこがどのように面白いのか、人に伝える。	
	第7回	テーマ・プレゼン 3	各々が関心・興味をもつ事柄について、どこがどのように面白いのか、人に伝える。	
	第8回	テーマ・プレゼン 4	各々が関心・興味をもつ事柄について、どこがどのように面白いのか、人に伝える。	
	第9回	テーマ・プレゼン 5	各々が関心・興味をもつ事柄について、どこがどのように面白いのか、人に伝える。	
	第10回	フレームワーク・プレゼン 1	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第11回	フレームワーク・プレゼン 2	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第12回	フレームワーク・プレゼン 3	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第13回	フレームワーク・プレゼン 4	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第14回	フレームワーク・プレゼン 5	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第15回	フレームワーク・プレゼン 6	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		初めの数回を除き、原則として学生のプレゼンテーションと質疑応答を中心に進める。		
授業外学習の指示		配付資料と参考書を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず参考書で確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する参考書の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	配付プリントをテキストとして使用する。
参考書	『岩波 哲学・思想事典』（本学図書館蔵）
参考URLなど	なし
その他	なし